KOUCHOU SENSEI kara HITOKOTO

成果と結果

校長 深沢信吾

生徒会役員と

〝成果をあげるのは才能ではなく習慣である〟とP・F・ドラッカーは言います。

巨摩高の特色は、92年の伝統やスーパーサイエンスハイスクールとしての知的体験活動、活発な部活動や国際交流等さまざまありますが、生徒はその中から選択をし、情熱を持って、継続して、一生懸命努力しています。そのような学びの場が巨摩高です。

夢中で続けられるものがあることは大切です。その中から高校時代の生きた〝成果〟と呼べるものを手にすることができます。これらのものは決して個人プレーで得られるものではありません。先生や仲間の励ましも大きいでしょう。それを生み出す環境が大事です。

ところで、〝成果〟とは何でしょう。〝結果〟とはどう違うのでしょう。

Have a positive attitude to everything.

「今度のテストは100点を目指していたのに、80点しか取れなかった」というのは〝結果〟という事実です。

「今度の試合は負けたけれども、全力を尽くしたし、自分の弱点も見つかった。また、新しい練習方法を生み出すこともできた」というのは〝成果〟です。

冒頭のドラッカーの言葉に戻ると、〝成果〟とは、「持って生まれたその人の才能ではなく、習慣である」、すなわち、目標に向かって、頑張って、一生懸命に行動を積み重ねることによって得られるものです。

巨摩高という学びの場で、〝成果〟をあげようとすることは、未来に向かって夢と希望にあふれたポジティブな行いです。多くの生徒が、このように考え、感じて、〝成果〟を目指してさまざまなものに取り組んでいくことを望みます。

特集 修学旅行

歴史に学び 文化に触れ 自然に癒やされた旅 in Okinawa

日程

●1日目　（サザンビーチホテル泊）
山梨 ― 羽田空港 ― 那覇空港 ― 平和祈念公園

●2日目　（ホテルリゾネックス名護泊）
クラス別行動（平和学習・糸数壕・美ら海水族館 他）

●3日目　（ANAクラウンプラザハーバービューホテル泊）
タクシー班研修（マリン体験・体験学習・国際通り散策 他）

●4日目　（サザンビーチホテル泊）
首里城 ― 那覇空港 ― 羽田空港 ― 山梨

巨摩高にゅーす

受賞ラッシュ!!

課外活動でも大活躍の巨摩高生！

表彰台中央が雨宮くん 01

弓道部／佐久間さん

03

02

アンサンブルコンテスト金銀入賞 05

04

●**弓道部**　全国高校弓道選抜大会：女子個人8位入賞　佐久間有咲
●**陸上部**　関東高校新人大会：男子砲丸投げ優勝　雨宮巧
●**生物地学部**
日本学生科学賞山梨県審査：県教育長賞　中央審査進出
『櫛形山の環境調査～櫛形山トレッキングコース沿いの顕花植物およびカニコウモリとマンエンスギのモニタリング調査（その1）』
雨宮巧、武井政仁、津久井裕太、深澤亜生、深澤光希
山梨県家庭クラブ連盟研究発表大会：最優秀賞　全国大会出場決定
『自家製天然酵母でヘルシーライフ』
深沢愛意、梅田知里、遠藤朱夏、荻野日菜子
生徒の自然科学研究発表大会 ポスター部門：理科部会特別賞
『南アルプス市の漆川および坪川に生息するゲンジボタルの遺伝子解析と分子系統』　中込琳、深澤亜生、荻野翔、藤原孝一
●**物理化学部**
生徒の自然科学研究発表大会：教育長奨励賞W受賞
物理部門：『サバイバルソーラーカー（その2）』
石口秀一、宮原健太
化学部門：『ビタミンCの科学』
秋葉天菜、上野康坪、山本仁
●**吹奏楽部**
山梨県アンサンブルコンテスト
木管五重奏：金賞　有泉朋奈、石川綾華、石口秀一、半田智香、藤本真歩
打楽器四重奏：銀賞　飯野瞬、高島さくら子、中込栞里、湯浅文香

「挑戦」 写真01
二年 雨宮 巧（櫛形中出身）

私は、大きな大会に出場するときは緊張して思うような記録が出ないことが多いのですが、今回の関東新人では、自分でも驚くほどに落ち着いていました。結果として、自己ベストで優勝することはできましたが、目標とする記録には届かなかったので、来シーズンでは目標を達成できるように頑張りたいです。

「調査、研究から学ぶこと」 写真02
二年 深澤亜生（増穂中出身）

自らの目で見て実感する、それが観察の楽しさである。そのことを私は櫛形山の観察調査から学んだ。昨年にひきつづき顕花植物の個体数を調べてみると個体数が減少していて驚いた。そこから、私たちと自然とのあり方を考えていかなければならないと感じた。これから具体的な対策を実行していきたい。

「結果を出すこと」 写真03
二年 深澤愛意（櫛形中出身）

研究を進めていくうちに疑問点が増えていき、それら一つ一つを追求することに達成感を得るようになりました。大会という目標ができると、楽しさよりも結果を出すことが課され、研究することの難しさを実感しました。入賞という結果を自信に、今後も更なる発見を求め、努力していきたいと思います。

「まだまだ飛躍！巨摩吹」 写真05
二年 石川綾華（八田中出身）

今回、私たちは、木管五重奏に金賞、打楽器四重奏に銀賞を頂きました。一人一人が自分の苦手を克服し、高いレベルで曲想を表現することができたからこその結果だと思います。これからも、音楽を演奏できることへの喜びと感謝を忘れず、吹奏楽部としての活動をさらに高めていきたいです。

「サバイバルソーラーカーの研究」 写真04
二年 宮原健太（若草中出身）

私は、日陰を避け、常に走り続けることのできるサバイバルソーラーカーの研究をしています。研究発表大会では教育長奨励賞を獲得することができました。賞が頂けるとは思っていなかったので驚きました。放課後や土日に残って研究するのは辛いですが、結果が出るのは嬉しいです。この経験を将来、役に立てたいです。

「ビタミンCの科学」 写真04
二年 秋葉天菜（増穂中出身）

私たちはビタミンCについての研究を行っています。研究を通して身近な物質の意外な性質を知ることができてとても楽しいです。先日の研究発表大会では教育長奨励賞という賞を頂くことができました。しかし、この結果に満足することなく、全国大会出場を目指してさらに良い研究を行っていきたいです。

「疑問くのあくなき探求」 写真04
二年 中込 琳（日根巨摩中出身）

現在、私は櫛形山の麓に生息するゲンジボタルの遺伝子解析をしています。これまでに、本ホタルが極めて貴重な遺伝子をもつことが確認され、現在、種ボタルの採取、養殖・放流なども、部をあげて行っています。これからも、未知のことを解き明かし、疑問を深く探求していきたいです。

特集 SSH スーパーサイエンスハイスクール

実験にどきどき 知るって楽しい！ わくわくサイエンス in 巨摩高

平成24年度から始まった「わくわくサイエンスin巨摩」も今年で3回目。今年は南アルプス市内を中心に62名の児童、41名の保護者が参加してくれました。事後アンケートでは、88％の児童、100％の保護者が「また参加したい」と回答。リピーターも増えています。

実　験　●手作りスーパーボール　●ダンシングスネーク　●脳の解剖　●ハノイの塔　●アイシャドーで指紋検索　●空気砲　●スーパー万華鏡　●空気圧の科学　●DNA　●教訓茶碗　●電気くらげ

いろいろな体験ができて楽しかった（児童）

楽しくてあっという間に感じた（児童）

高校生が子供にわかりやすい言葉を使って説明してくれる姿に感動した（保護者）

脳の解剖は本物でやらせてもらってとても楽しかった。小さい頃にこうした本物を見る機会は大切だ（保護者）